

令和7年10月4日開催
戦後80周年記念事業「無言館と松代大本営を巡る親子平和バスツアー」
参加者の感想

菅野小学校 5年生

「今日は無言館という所と松代大本営という所に行きました。無言館は戦争に行った画学生たちの作品が展示されている所で絵やそれを書く為のもの、その人たちが戦争に行つてどうなったのかが詳しく書かれていました。松代大本営は天皇が避難する用として作られて、けっきょく使われなかった防空ごうです。中は14～15度くらいの寒いかんきょうで道はふくすうに枝分かれしていて、入れたのは5900mのうち500mしか入れませんでした。穴をほるための掘削機で掘つて結局なにもしなかったあと、トロッコのまくら木のあとなどそのころの風景がうかんできました。人生でも貴重な体験ができて良かったです。」

保護者

「無言館も松代地下壕も、一度行ってみたいと思っていました。松代ではガイド付きだった為、詳しく知れて大変良かったです。特に沖縄戦との関係は、時系列で聞けたので「なるほど、そういう事だったのか」と納得しました。沖縄に修学旅行に行く高校生は事前学習で地下壕に来ると、ガイドさんは仰っていましたが、長野県民として、松本市でも是非この事実を周知して欲しいと思いました。バスの中でも文書館の窪田さんによる講座があり、知らなかったことを教えて頂きました。身近にもこれだけ戦争遺跡があると思うと、(無言館の遺品もそうですが)まだたった80年前なんだと思ひ知らされ、当時の人々のリアルな生活や心情に想いをはせました。バスも安全運転して頂いて快適でした。参加出来て良かったです。」

寿小学校 2年生

「どうくつが、思ったより寒くてびっくりしました。今だったら、お姉ちゃんはどうしようにはたらきに行って、私は草や葉っぱを持って学校にいくんだよね。」

寿小学校 5年生

「戦争の時の子供たちは、ちゃんとしたご飯も食べれなくてかわいそうだなと思ったし、私は今の時代に生まれて良かったなと思った。無言館の絵素敵でした。まだ絵が描きたいのに、どうしても戦争に行かなければいけなくて、かわいそうだなと思いました。」

保護者

「貴重な歴史を肌で感じられる機会を、親子で参加できありがとうございました。大本営を松代に作っていたのだと言う歴史は知っていましたが、完成させるまでの時間稼ぎの為に、沖縄本土での戦いを行っていたことに、とても衝撃を受けました。また、広島長崎に原爆が投下されずに、松代大本営が使用されていたら、また違う歴史が長野県にはあったと思うと、沖縄の方々を遠い南の島とは思えません。本当に、同行の先生やガイドさんのお話を聞くと、なんと

愚かなことを日本政府はしてきたのだろう。なぜ止められなかったのか。それには本当に原爆しかなかったのか。また世界中は戦争を始めるのではないかと、不安で仕方ないです。ですので、祖父母が戦争体験した話を聴けた最後の私の世代が、全く知らない子供達へ「戦争の愚かさ」を感じてもらえる機会をいただき、本当にありがとうございました。」

芳川小学校 6年生

「無言館」では、亡くなった方や、消息不明の方々が、戦争前に残した、絵や、文章があり、今までは、楽しかったのだろうと思った。「傷ついた画布のドーム」では、本や、体験された方々が、書いた本が、あり、悲しみを感じた。外にあった「折りかけの鶴」があり、戦争の怖さを、感じた。「両方を見て感じたこと」は、改めて戦争は、怖いと思った。また行きたい。「洞窟」は、戦争のために、こんなに広い洞窟をよく作ろうとしたなあ～とおもった。毎回おかげなのは、かわいそう。当時朝鮮人たちはどのような気持ちだっただろうか。」

保護者

「戦争は 80 年以上前のことだが、自分の住んでいる長野県で、それを肌で感じたのは初めてでした。無言館では、召集により絵を描くことを諦めなければならない切なさや、生きて帰ってきてまた絵を描きたかったのにそれが叶わなかった無念さ、家族の悲しみ等、様々な思いを感じました。絵と同じように、戦争に行かれた方々にはそれぞれ好きなこと、やりたいことがあったらと思うと心が痛みます。松代大本営は、本当にたいそうな地下壕で、これだけの物を作るのにたくさんの犠牲があったんだと知り、切なくなる場所でした。特に、沖縄本島の戦いと関係していたという残酷な事実には悲しみを感じました。このツアーから帰宅してきてからも、行けて知れてよかったとなんともいえない余韻が続いています。貴重な機会をありがとうございました。」

清水小学校 4年生

「今日は、無言館と松代象山地下ごうを見学しました。無言館では、せんそうに行った人たちがかけた絵を見ました。どれも心のこもった絵で、家族やふるさとを大切に思っていたことが伝わってきました。でも、その人たちはせんそうで命をおとしてしまったと聞いて、とてもかなしくなりました。松代象山地下ごうでは、くらくてひんやりとしたトンネルを歩きました。昔の人たちがつるはしなどを使って、手でほったと聞いてびっくりしました。つらくてきけんな仕事だったと思います。今回の見学を通して、せんそうはたくさんの人の命やゆめをうばうものだとわかりました。これからもへいわを大切にしていきたいです。」

保護者

「本日、子どもとともに無言館と松代象山地下壕を見学しました。無言館では、戦争で命を落とした若い画学生たちの絵に胸を打たれました。一枚一枚から、絵を描くことが好きだった気持

ちや、家族への思いが伝わってきて、命が奪われたことの重みを改めて感じました。松代象山地下壕では、あのような大規模な地下施設が、手作業で掘られたことに驚きました。過酷な労働と、その背景にある時代の現実に、ただ驚くばかりでした。子どもにとっても、戦争について深く考えるきっかけになったと思います。平和の大切さを、次の世代にどう伝えていくか、私自身も考えさせられる貴重な一日となりました。」

筑摩野中学校 2年生

「『松代大本営地下壕』では、戦時中にも関わらず多くの人が苦勞してつくってきたことが伝わってきました。今まで、戦争のことについてあまり触れてこれませんでした。ですが、今回のバスツアーを通して戦争のことについてよく触れることができました。これから二度と戦争が起こらないように自分が何をすべきか深く考えて行きたいです。また、今まで日本や世界で起こった戦争について、調べたいと思いました。今回参加させていただいて、自分のためになったので良かったです。参加させていただきありがとうございました。」

保護者

「戦後 80 周年という節目にあたり、改めて『戦争や平和』について気付かされる事が多く今回のツアーに親子で参加させていただきました。信州に暮らしながら初めて『松代大本営』を訪れ、長野県の『戦争』について殆ど無知だった事に恥ずかしさを感じました。バスの車内で窪田さんの講座は非常に有意義な時間だったと思います。学習資料も分かりやすくまとめられていた為、食い入る様に資料に目を通しながら『戦争・平和』とは…と考えながら【無言館】に向かいました。いつか行きたいと願っていた【無言館】は戦没画学生の作品と展示されている遺品が『戦争』の憎らしさを沸き立ててきました。戦没画学生 1 人 1 人の想いを作品から読み取りながら、時には目頭が熱くなりました。欠かさず観ていた NHK 朝ドラ『あんぱん』とリンクする事があり、余計に作品のおもさに胸がうたれました。『松代大本営地下壕』はガイドさんの細かな説明がとても勉強になり、もっと自分で調べてみたい気持ちが湧いてきました。インターネットや書籍からの情報もありますが、やはり実物に触れる大切さを改めて感じました。2 度と戦いが起こらないように、これからの子供たちが『戦争』に行く事がないように…今生きている私達出来る事は何か?? 考えていかななくてはならないと改めて感じました。参加させていただきありがとうございました。」

旭町小学校 3年生

「戦争中に大きくて広い地下壕を作るために細いドリルで岩壁に穴を開けてダイナマイトを入れて爆発させたと聞いて、大変な事をやっていたと思いました。他にも 12 時間交代で作業していて 1 人 1 人疲れていたけど頑張っていて凄いなーと思いました。」

保護者

「無言館には何度か訪れていますが、孫と訪れた今回のツアーは子供目線で展示や作品を見ること出来、新たな発見が沢山ありました。地下壕についてはガイドさんの説明により、大本營の設置経緯、大戦末期に集中して建設された大本營関連の多様な施設群に驚くとともに、戦争の悲惨な結果や無残さに苛立ちさえ感じました。今の世界を見回すと平和維持の困難さ困惑する今日この頃です。」

開明小学校 2年生

「私は戦争を知りません。でも、戦争は犠牲が多くなったり、怖いし、悲しいし、ひどいと思います。だから、戦争はしないでほしいです。」

開明小学校 5年生

「今回、戦争について詳しく知ることが出来て、本当に戦争は良くないと思いました。地下壕や無言館を見学して昔何があったのかを、しっかり学ぶことができました。これからも、いつか大人になって子供が出来たら、その子にも戦争はとても悲しい事なんだ、戦争でこんなことがあったんだと、教えてあげたいです。」

保護者

「松代には学生時代に1度訪れた事がありますが、親となった今、改めて子供達と一緒に見学する事が出来てとても良い経験になりました。親子共に戦争を知らない時代に生まれました。今ある平和や幸せは、過去の悲しい歴史や犠牲の上に成り立っているのかも知れないと思うと、ただ悲しむだけではなく、その事実と向き合いつつも、これからの未来は戦争の無い平和な世界であってほしい、そして子供もそのまた子供達も、何処にいても安心と幸せのある世の中になっていて欲しいと、切に思いました。」

梓川中学校 1年生

「戦争の被害は広島や長崎、東京が有名だけど、そういった地方でも戦争の被害があったんだなと思いました。無言館は、美大生の絵が凄いばかりで、戦争が原因で病気や怪我で死んでしまったのはとても残念だと思った。もっと絵が描きたかったらうな、と感じた。やっぱり傷ついた画布のドームみたいに傷ついてしまった絵もあるけど、戦後から80年も経ってるのにこんなにきれいに残っているのがすごいと思った。

松代大本營は、ダイナマイトを使ったとはいえ、あれだけの防空壕を掘ったことがすごいと思った。朝鮮の人を連れてきて不発弾の確認とかなれない仕事とか危ない役目とかを強いられて、そういう面では日本は被害を受けただけ、とは言えないとも感じた。」

保護者

「無言館は、お恥ずかしながら存在を存じ上げておりませんでした。上田は個人的にもサントミ

ユーゼや上田城跡の貴重な資料が残っており何度も訪れている場所です。ですが、戦争の傷跡が残る場所ということを知りました。上田が養蚕業の盛んなところであったことは知っていましたが、その割にそのような建物が少ないと感じていましたが、空襲をうけたことと関係があるのでしょうか。

無言館では一つ一つの作品各々に故人の想いを痛いほど感じ何度も涙が溢れそうになりました。才能がありながら二十歳そこそこの若者が命を散らしていく。その現実が実際に起こっていた。その上に我々が生きているのですね。たくさんの素晴らしい作品の中で、特に印象深かったエピソードの方がいました。徴兵される前にもかかわらず、家族に何も告げず突然戦場に行ってしまった。数々の作品は雨にさらされ残ったのは数枚の作品のみだった。今となってはその方の真意はわかりませんが、何を思っていたの行動だったのでしょうか。周りの友人、知人達が戦地に向かう中いてもたってもいられなかったのか… 家族に残した手紙には身の回りの片付け方の指示が書き残されていたとか。戻るつもりはなく、死地に向かう覚悟だったことがわかります。二十歳そこそこのその決断とはどんなものだったろう…自身の二十歳ごろを思い出しました。果たしてそんな決断をできるかどうか。それぞれの作品が本当に素晴らしく、貴重な才能が戦争という愚かな人間の行いによって消えていきました。今後二度とそのような愚かな行動を起こしてはいけません。改めて心に強く思いました。もう才能の一片も失っては駄目だと感じました。

松代大本営は学生の頃に2度ほど行った記憶があります。子供の頃は何気なく見学していましたが、改めて解説を聞きながら見学することで松代大本営の本当の意味を知り、学生の頃の自身を恥ずかしく思いました。日本は昔から身分格差をつけ、貧しい人を下にみる民族ですね。植民地から騙すように人を連れてきて悪環境の中強制的に労働を強い食べ物も満足に与えなかったことは本当に惨たらしく軽蔑に値します。更にはたくさんの犠牲が出た沖縄戦も裏を返せば大本営を松代に移すためだったんですね！人の犠牲の上に人はたちません！人の命の重さにそこまでの違いがあるのでしょうか…戦争は負けることがもっと早くわかっていました。皆が各々にその無意味な死について考え、世界的にも永劫の平和を手に入れることに努力すべきです。今日、改めてそんな気持ちになりました。とても貴重な機会でした。ありがとうございました。」

清水中学校 1年生

「今まで戦争はただ漠然と『怖いもの』『大変なもの』という認識だったけれど、実際に資料やその場所に行くことで戦争がよりリアルに、身近に感じられました。悲しい出来事だけど、戦争は風化してはいけない、私たち後世に語り継がれるべきことだと改めて感じさせられました。」

保護者

「兵士の方々が家族・友人・恋人を想ったり、好物をまた食べたいな…などに共感し、時代は違えど考えは共通しているのだと想いを馳せながら観覧していました。文書館の窪田さんがおっ

しゃっていたように、『実際に目で見て触れる経験』を通して、子供達には自分の中に落とし込んでほしいです。戦後 80 年という節目に、貴重な機会を設けていただきありがとうございました。」

筑摩小学校 6 年生

「松代大本営の中に入って見て、昔の人はこんな凄いものを作ったんだなあと驚きました。無言館に飾ってある絵も見ていて引き込まれるものがあった。」

開成中学校 2 年生

「長野県でも植民地から連れてこられ、危険な場所で労働させられていた事が知れて良かったです。松代大本営の中も初めて入ったけど、すごく広くてビックリしました。」

保護者

「80 年前の歴史を自分の目で見て学べた事がとても良かったです。無言館では当時の葉書であったり手帳であったりが展示してあり、その時の気持ちなど考えるといかに今が幸せなのか考えさせられました。普段何気なく通っているところに戦争遺跡があることも知れたので、子供達と見に行ってみたいと思いました。子供と平和について考えるきっかけにもなりました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。」

波田中学校 1 年生

「戦争の大変さを、改めて身に沁みて感じた。ガイドが分かりやすい解説でありがたかった。」

保護者

「戦争の悲惨さを改めて感じた。松代大本営跡では詳しい話が聞けて、今まで知らなかったことが知れて良かった。」

保護者

「無言館も松代大本営跡も一度訪れたいと長年思っていたので、本当にありがたい企画でした。バス講座や現地ガイドも思いがけず聴けて、大変有意義な時間でした。個人で出掛けたら、ただの観光で終わっていたと思います。今ある生活は、多くの人々の犠牲の上に成り立っていることを肌で感じました。そして戦争という馬鹿げた行いを、戦時中の人達の苦しみを、子世代に決して経験させてはならないと、改めて思いました。でもそのために、私は何をしたら良いんだろう？考える日々が続きます。」